



ななつかの風～

畜産技術センターニュース

発行事務局
● 広島県立総合技術研究所
畜産技術センター技術支援部
〒727-0023
庄原市七塚町584番地
TEL 0824-74-0331
FAX 0824-74-1586

● 『家畜人工授精養成講習会』 開催（1/30～2/27）！

家畜人工授精師養成講習会が、1ヶ月間にわたり、農業技術大学校と畜産技術センターを会場として開催されました。受講生は24名で、農業技術大学校生、酪農・和牛繁殖および和牛肥育経営後継者、畜産法人構成員、団体勤務者など、当県のこれからの畜産を担う人材が家畜人工授精師の資格獲得をめざし参加されました。

終日、講義や実習を熱心に受講され、みなさん、晴れて、全員合格です。
おめでとうございます！ 次回の講習会は平成28年度に開催される予定です。



人工授精研修の様子



乳牛の家畜審査実習の様子

● 広島県農業関係高校教諭の畜産先端技術研修会開催（2/17）

広島県農業関係高校教諭9人が、畜産先端技術研修会に参加されました。

①広島県産和牛の産肉能力の現状と展望（育種繁殖研究部今井昭副主任研究員）、②飼料イネ「たちすずか」WCS給与による乳用牛と肉用牛の飼養（飼養技術研究部河野副部長）、③ITを活用した繁殖和牛の飼養管理（技術支援部新出次長）について、教科書に掲載されていない研究の最前線の解説、講義が行われました。

先生からは畜産教育への成果応用の仕方や農家での様子などについて、積極的な議論が行われました。



研修会の様子

●庄原市長，センター視察（2/16）！

庄原市長が来所されました。

庄原市では、平成26年7月に、ブランド牛「比婆牛」の再興に向けて、『あづま蔓（つる）振興会』が設立され、比婆地域で血統の結びつきの強い牛群保持と、比婆牛の生産振興に取り組んでいるところです。

現在、県と全農ひろしまとの連携で、比婆系血統である「岩田系」の形質を持つ「烏帽子（えぼし）」を造成中であり、比婆牛ブランド化のkeyとなる候補種雄牛の生育状況を熱心に観察されていました。

また、飼料用米を活用した和牛TMRセンター設立構想もあり、TMRの調製の実際を興味深くごらんになりました。



TMRの調製を確認



血統情報をご覧になる様子



「烏帽子」とのご対面

●庄原和牛改良組合3支部合同で畜産研修会開催（3/20）！

庄原市和牛改良組合3支部（口和，比和，高野）合同で、畜産研修会が開催されました。60人が参加され、畜技センターが繋養する種雄牛の視察も含め、県産和牛の計画交配の実際や、全国和牛能力共進会への取組状況について熱心に聴講されました。

種雄牛の選抜・改良について、形質の遺伝量を推定する育種価の導入（平成3），種雄牛選抜を3.5年で達成する分割卵検定（平成4），選抜の正確度を向上するクローン検定（平成19），さらに、新たな改良手法としての遺伝子による選抜（平成23）を展開してきた実態を、研究員が解説しました。

また、種雄牛視察では、平成29年宮城県で開催の第11回全国和牛能力共進会で共用される「3柴沖茂」，広島血統割合の高い「沖茂神竜」，クローン検定選抜された「紅勝白」の姿を、みなさん、頼もしそうに視察されていました。



研究員から種雄牛の説明を聞く皆さん

● 広酪TMRの利用者意見交換会が開催される（1/30）！

広島県酪農業協同組合が頒布を開始した飼料イネTMRに対する利用者との意見交換会が開催されました。



飼料イネを用いたキューブ発酵TMR

広酪からは、H27年度産飼料イネWCSの確保状況や発酵品質データ、畜技センターからは、TMRを使った給与試験での泌乳成績や血液性状について情報提供しました。

農家からは、現在のTMRは梱包圧力が強く給与しにくいとの意見もあり、梱包圧力を変えた製品を実際に開封するテストも行いました。

農家における泌乳成績等へのTMRの評判は上々ですが、さらなる低コストに向けて、飼料イネWCSの混合割合を増加する要請もあり、調査を継続していくことになっています。

● 畜産技術センター研究成果発表会開催される（2/10）！

畜産技術センター研究成果発表会が、三次市のふれあいセンターで開催され、75名の畜産農家、関係団体、行政機関の方々の出席がありました。

基調講演として、「2020農林水産業チャレンジプラン」のアクションプラン第Ⅰ期の施策方針に加え、『広島県産和牛の生産振興と販売振興』について、県庁畜産課の小川主幹と販売推進課の柳生主査に、これまでの取り組みと今後の方向について解説頂きました。H32年の県産和牛6,000頭出荷に向けては、血統と伝統に $\pm\alpha$ となる特徴の付与が求められ、地産地消を推進には、県内量販店への供給量アップ必要であることが示されました。

当センターからの成果発表は、『広島県産和牛の産肉能力の現状と展望』として、育種繁殖研究部の金ヶ江研究員が、育種改良の歴史と、産肉能力や血統構成の推移及び今後の方向を紹介しました。また、『受精卵移植技術による広島県産和牛の生産振興』として、育種繁殖研究部の福本研究員が、体外受精卵の生産・供給や受胎率向上に関する技術内容と、受精卵移植普及定着推進事業の成績を紹介しました。

会場からは、広島県認証制度による歴史と伝統による和牛ブランド「元就」に関する生産者団体の取組紹介、繁殖成績改善、受精卵移植推進のみならず、地域の自給飼料を活用した低コスト生産技術による増頭の必要性提案がありました。

また、同じフロアで、研究成果のポスター発表もあり、来場者と研究員が直接面談しながらの説明も行われました。

当日取ったアンケート調査では、生産流通に直接携わる人の意見が聞きたい、総論的でなく研究内容について詳細な解説がほしいなどの意見があり、今後の参考にさせていただきます。ご来場いただいた皆さん、ありがとうございました。



編集後記：新年度が始まります。また、新たな課題解決に向かって進みます。

研究開発と技術支援を両輪とする活動を、H27年度もご期待ください。・・・SS